

集団演技出演者の技能と意識の変容

福島大学教育学部 鈴木裕美子

1. はじめに

大会を盛り上げるアトラクションとして、集団演技は、演技者も観客も楽しい時間を共有し、大会気運の導入や回顧にひたる役割を果たす。演技者には一定以上の表現力が求められ、動きや音楽、衣装、小道具などの総合的な演出が見栄えに影響を及ぼす。演技者が技能を習得していく過程で、内面にどのような変化が生じるか、また、意識が演技の出来栄えにどのように影響を及ぼすか、全国大会の集団演技者の技能と意識の変容について考察した。

2. 対象とした集団演技

(会場は、全て福島県営あづま陸上競技場)

- A 第50回国民体育大会ふくしま国体開会式 (1995. 10. 14)の一般の部会 (1,000名)
- A 第31回全国身障者スポーツ大会開会式 (1995. 10. 29)の一般の部会 (1,000名)
- B 第15回全国健康福祉祭(ねりんピック)開会式(2002. 10. 19)の高齢者の部会 (150名)

3. 作品

1) 創作と指導

A 地域から選出された委員→指導者→出演者グループ毎の練習や地区練習、合同練習には、委員も関わった。全体練習では、委員が指導した。各団体の個別練習、部会の合同練習、全体リハーサルを経て本番を迎えた。

B 業者委託→指導者→出演者

業者は最初の振り写しとゲネプロのみ関わった。振り写し、各団体の個別練習、部会の合同練習、全体リハーサルを経て本番を迎えた。

2) 作品

A 福島県のイメージと出演者である女性をモチーフに、“自然”と“愛”をテーマにして三部構成に仕上げた創作ダンス。隊形は、5分26秒間に4変化した。音楽は、作曲家がオリジナルの曲を作曲。

B “元気”をテーマに、軽快なリズムの曲に振り付けられた3分30秒の踊り。8列縦隊のまま踊りと行進で構成。音楽は、福島市の祭りのラップ調の曲。衣装はポンチョ、パンツにベレー帽。小道具として両手に鳴子を持った。

4. 指導者・出演者

1) 指導者のタイプ

A 指導者の主導型(叱咤型)、大会の規模、演技の複雑性、指導者の年齢や経歴・性格から必然的に厳しい指導となった。

B 問答型(激励型)、大会の目的、出演団体の活動目的や集団演技出演の目的、出演者の年齢に応じて、無理のない楽しい雰囲気への指導となった。但し、指導者は出演者の心身の状態に綿密な配慮を行った。

2) 出演者の運動習慣の有無

A 3割の出演者が運動サークルに所属、7割については運動習慣の有無に関係なく依頼。

B 運動習慣については不問。運動習慣のある人や国体の集団演技出演者もいた。

5. 練習過程と出演者の心理的变化

A 演技の正確さ・美しさ・仲間との調和を求められ、初期の段階では心身ともに厳しい試練であった。机上創作と実際は、動きの習得度、マスとしての見栄えの観点から修正が必要で、練習の過程では混乱が伴った。また、意欲はあるが練習の厳しさに不満が高まり、県庁や指導者宛てに電話や手紙で訴える人もいた。しかし、次第に動きを習得し、賞賛され、衣装が配付されると、指導の厳しさを求めるようになった。

B 楽しく元気に参加することが求められ、発表までに次の段階を経た。

(1) 動きの習得 (2) カウントの確認 (3) 集団のタイミングを合わせる (4) 顔の方向を揃える (5) 衣装や小道具の工夫 (6) 動線の確認
曲の構成を把握し、踊りの順序や移動方向を覚え、練習が進むにつれ、踊り自体の楽しさ、小道具を操作する楽しさ、集団で演技する楽しさ、技能が上達する楽しさ、発表する楽しさを味わうようになった。技能的には、正確に踊り、揃うようになり、めりはりがつき、観客を意識するに至った。動きの左右、回数、方向に注意して、最後まで和気霽々の雰囲気が持続した。出演者の意識は非常に高く、使命感が強かった。また、全体的に仲間意識が芽生えた。

A, Bともに当日の出来栄えは最高であった。

6. まとめ

集団演技の出演者の練習以前の意識は高い。練習開始後、演技の質や求められる演技力、指導のタイプや大会の目的によって意識に変化が生じる。すなわち、厳しい練習が長期に継続されると不満が生じ、意識は退行するが、それを乗り越えると、意欲が加速度的に高揚する。一方、短期間に無理のない内容・方法で練習していくと、意識はさらに高まる。当日の演技が納得のいく出来栄えで発表でき、観客から賞賛されれば、過去にマイナス面があった場合は払拭され、再体験や習慣化の欲求が生じる。舞踊のもたらす身体的な満足感と、集団で成功させた精神的な達成感が、地域を活性化させる原動力の一つになると思われる。